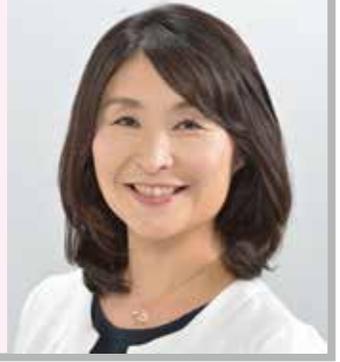


# 入江あき子の県議会速報

発行 県議会議員 入江あき子



## 議会が終わりました (2/15 ~ 3/15)

千葉県の平成 30 年度一般会計予算は、過去最大規模の 1 兆 7288 億円。森田知事は「暮らし満足度日本一」を掲げていますが、ほとんどの政策は国に従うばかりで県独自の取り組みが見られません。2月議会の予算委員会では、医療、教育、防災、エネルギー政策を取り上げました。そのいくつかをご報告します。

### 教育

財政力は全国4位…でも教育予算は全国最下位

なぜ???

小・中・高校生一人当たりの教育費(単位:円)

		小学校	中学校	高校(全日制)
2015年	千葉県(順位)	874,358 (42)	1,063,932 (33)	1,047,297 (44)
	全国平均	947,269	1,086,126	1,192,314

地方教育費調査より

県立高校(123校)のほとんどで校舎等の老朽化が進んでいます。30年度から長寿命化計画に基づく大規模改修事業がスタートしますが、初年度対象となるのは、わずか5校のみ。学校現場からは、雨漏りや外壁の崩れなど校舎・設備等の整備を求める要望が毎年2千件以上ありますが、例年2割程度しか対応できていません。

**入江質問** 佐倉南高の情報演習室に設置されているパソコンは16年前のもので、更新が必要ではないか。図書室のエアコンも3年前から故障しているが、改修の見通しはどうか。

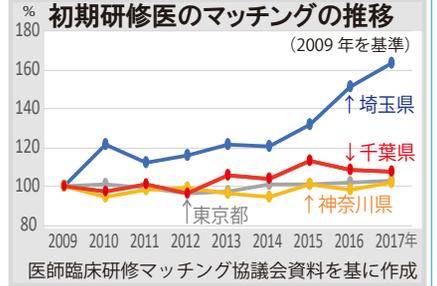
**答弁** パソコンについては、今後学校と相談した上で検討していく。また、エアコンについては既存のものが修理不可能と確認したので、早急な対応が必要。(新しいエアコンを設置すること)

**コメント** 30年度の予算枠が約11億円ではあまりにも少なすぎます。学校現場の要望に応えるためには30億円程度必要と思われます。千葉県の財政力は全国4位なのに、教育費は全国最低レベル。(高校は一人当たり14万5千円も少ない)教育予算をもっと拡充すべきです。

### 医療

お医者さんが足りない!! 自治体間の「医師獲得競争」が激化

千葉県における医師数は全国45位。医師確保が喫緊の課題です。県は地域医療に貢献する人材を確保するため、9年前に「医師修学資金貸付制度」を創設。この間、募集人数や対象大学を広げてきました。30



年度予算では、5億7335万円(新規貸付枠63名)が計上されています。

**入江質問** 修学資金貸付による医師確保のこれまでの実績、30年度以降の見込みはどのようになっているのか。

**答弁** これまでに285人に貸付を行い、すでに50名を超える医師が就業し、37年度までには、400名を超える医師が確保される見込み。

**入江質問** 県内医療機関で2年間の臨床研修を終えた初期研修医の県内定着率はどのように推移しているのか。

**答弁** 初期研修医の定着率は、27年度が54.9%、28年度が59.4%、29年度が50.8%となっている。**\*千葉県の目標は、定着率80%**

**コメント** 初期研修医の呼び込み・定着率がカギです。

同じく医師不足に悩む埼玉県(医師数全国46位)では、初期研修医の獲得に力を入れ、県内臨床研修病院の合同説明会実施やガイドブック作成など積極的に取り組んでいます。その結果、初期研修医と県内臨床研修病院とのマッチングは大きく伸びています。千葉県もまずは初期研修医を県内に多く呼び込み、定着につなげる方策を早急に講ずるよう求めました。

## 3/20 県立高校統廃合プラン決定 生徒へのしわ寄せはダメ!

昨年末、県教委は県立高校統廃合プログラム案を発表。佐倉市内では、2021年度に①佐倉東高定時制は募集停止(翌年度定時制廃止)②佐倉南高全日制も募集停止で三部限定時制に改変という内容です。東高夜間定時

制の生徒を3・4年時に南高定時制に移す計画ですが、通学の便も悪くなり交通費の負担も重くなります。2月県議会に「佐倉の高校を守る会」から、プログラム案の撤回を求める請願が出されましたが、否決。すでにプログラム案は決定してしまいましたが、引き続き働きかけていきます。

まずは現場へ!

当事者の声を政策につなげます



1/30 佐倉南高 情報演習室にて



1/31 エネルギー先進地 睦沢町へ 町長・議長さんと



3/2 予算委員会で質疑

「入江あき子の県議会報告」もご覧ください

4/13 発行予定 4/15 一部新聞折込予定

### エネルギー

発電量「全国1位」の千葉県に 新たな石炭火力発電所建設計画が...

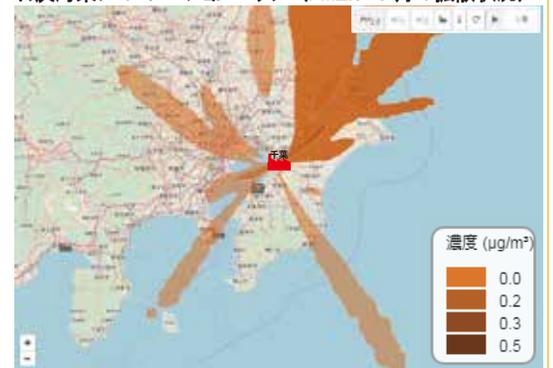
県内にある発電所の総発電量は、1億388万メガワットアワー(28年度)で、全国第1位。その主な内訳は、火力発電が約99.4%で再生可能エネルギーは、わずか0.6%。そのほとんどが臨海コンビナートにある火力発電所によるものです。また、県内で消費する電力は約3割で残り7割は県外に送られています。

首都圏のエネルギー供給基地となっている千葉県に、新規の石炭火力発電所建設計画(千葉市と袖ヶ

浦市の2箇所に合計307万メガワット/2024年以降稼働予定)が進められています。周辺住民は汚染物質による健康被害を恐れ、建設反対の声をあげています。海外からも多量の二酸化炭素やPM2.5等の汚染物質を排出する石炭火力発電は「時代錯誤」と批判されています。温暖化対策にも逆行しています。

森田知事は、新たな石炭火力発電計画に「反対」の立場を表明すべきです。

石炭汚染シミュレーションマップ(PM2.5 3月の拡散状況)



資料: 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン、NPO 法人 気候ネットワーク